

留学フェア 2025 ～セカイをフィールドに～
Taki Plaza で開催！



東京科学大学となって初めての対面形式での留学促進イベント、「留学フェア 2025～セカイをフィールドに～」が2025年4月23日にTaki Plazaで開催されました。東京科学大学（以下、科学大）および外部の留学プログラムだけでなく、留学や国際交流を促進する学生団体、さらに、科学大に留学中の各国の交流学生たちも参加しました。

雨が降る中、最終的には約 250 名が来場し、各ブースで真剣に相談する来場者たちの姿が見られました。

スタッフと留学経験者による留学個別相談会

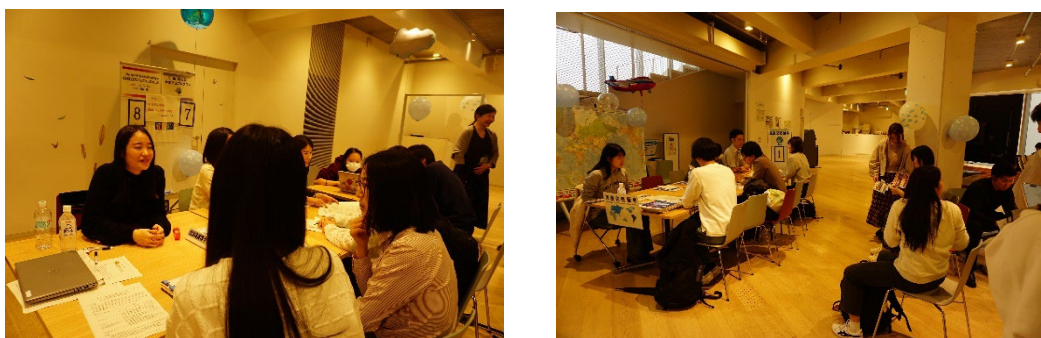
12 時半に開場すると、タキプラザ B1 階の受付でパンフレットを受け取った多くの学生たちが B2 階の会場へ降り、留学プログラム診断ツールで自分にあった留学プログラムを探したり、留学促進団体 FLAP のメンバーに相談したりしながら各ブースへ向かいました。



短期プログラムが集まった、ワークショップルームエリアで
特に新入生の人気が高かった超短期プログラム（左）、短期プログラム（右）



アジアの短期プログラムを紹介した 3 ブース
TAIST(左) ASPIRE・AEARU（中） Campus Asia +（プラス）（右）



長期の留学ブースでは高学年の相談が目立った
工・物・環学院の学生向けの国際交流プログラム（左）と派遣交換留学プログラム（右）



欧州での国際インターンシッププログラムを実施している
在 EU 企業インターンシップ（左）と留学中の就活の相談に応じる留学と就活（右）



理工系学生のための国際インターンシップ IAESTE

各ブースでは、実際にそのプログラムに参加した学生がプログラム担当者とともに来場学生の質問や相談に対応しました。短期プログラムから、長期プログラム、就活や海外インターンシップに関することなど、留学するにあたり在学生在が気になることを文字で情報収集するのではなく、経験者やプログラム担当者からじっくりと話を聞くことで、それぞれが思い描く科学大での留学実現に向けて、新たな目標を持つ機会になりました。

科学大に留学中の各国の交流学生と国際交流！

今年の留学フェアでは、留学促進を活動目的としている学生団体、FLAP の企画で、科学大に留学中の世界各国の交流学生出身国や大学、自身の留学のきっかけなどを紹介し、来場した科学大生たちと交流しました。また、キッチンエリアには、交流学生が作成した、ポスターが掲示されました。来場した学生からは、「実際に行きたいと思っているヨーロッパの大学からの交流学生と話せて、参考になった。留学がより具体的になった。」といった声も聞かれました。



協定校のポスター掲示（左）と各エリアブースでの交流の様子（右）



FLAP ブースの様子

グローバル・ラウンジ・プログラム

タキプラザ B1 階のグローバルラウンジでは、4つの講演プログラムが開催されました。



日本スタディ・アブロード・ファンデーション (JSAF) による「IELTS セミナー」では、留学の出願に不可欠な英語スコアのひとつ、IELTS の試験概要、スコアアップの対策法などを紹介し、参加した学生たちも熱心にメモを取っていました。

科学大には協定校の学位取得が可能なダブルディグリープログラムが4つあります。今年の留学フェアでは、そのうちの2つ、「東京科学大学・韓国科学技術院 (KAIST) 大学院ダブルディグリープログラム」、「東京科学大学・ポンゼショセ (Ecole des Ponts Paris Tech) デュアルディグリープログラム」のプログラムの特長やスケジュール、出願方法等について、各プログラム担当教員が説明を行いました。



KAIST とのプログラム担当の水谷義弘教授（工学院・機械系）による説明会の様子（左）とポンゼショセとのプログラム担当の千々和伸浩教授（土木・環境工学系）と参加者の集合写真（右）

ポンゼショセの説明会では、フランス側のコーディネーターがオンラインで参加し、また、春にフランスから帰国した学生が体験談を紹介し、来場した学生たちの多くの質問にも丁寧に答えていました。



坂本教授（左）と会場の様子（右）

昨年の留学フェアに続き、今年も、工学院機械系教授で 船井情報科学振興財団の奨学金事業選考委員も務める坂本啓教授による講演「海外大学院進学について」も開催されました。この講演では、坂本先生が自身の実体験から、海外の大学院での生活のリアルな様子などを紹介し、アメリカで博士課程を取得することについて話しました。

海外の大学院進学についての心構えや準備、実際に出願するために必要なことといった、海外大学院進学についてより具体的なお話を一方的に伝えるのではなく、大学院出願に関する実践的な質問や、研究分野との関わり、卒業後のキャリアについて、など、学位取得後の先を見据えた内容にいたるまで、学生からの質問も絶えず、インタラクティブにイベントが進み、参加学生の未来への情熱が伝わる企画となりました。

科学大に在籍する間に、短期・長期関わらず留学を経験すると海外大学院進学を視野に入れてみたいとか、海外での研究に本腰を入りたいと感じる学生が多い中、情報を得るのがなかなか難しいという声を聞くことが多いため本イベントを企画しましたが、海外の大学院進学が当たり前の選択肢となりつつある様子が垣間見られました。

留学のイメージデザイン



今年の留学フェアのパフレットや当日会場で配信していた動画で使用されていたこちらのイメージデザインは、2023 年から 2024 年に派遣交換留学プログラムでヨーロッパに留学した、環境・社会理工学院建築学系の小林凌輔さん（スイス連邦工科大学チューリッヒ校）、近藤卓海さん（ベルリン工科大学）の作品です。「これから出会う新しい世界に対し、固定概念にとらわれず、表層だけではなくその裏側にも目を向けてほしい」という、これから留学を目指す後輩たちへの思いが込められています。

留学プログラム診断ツール



科学大には短期から長期、授業履修からインターンに至るまで 30 を超える留学プログラムがあります。この数字、大学の規模からすると実は非常に多いことに気づくのではないのでしょうか？多数ある留学プログラムの中から自身のやりたいことや期間などを見つけるのは意外と大変です。どのプログラムが自分の希望に合うプログラムなの？そんな疑問に答える『留学プログラム診断ツール』を前回の留学フェアから導入しています。

このツールは現在情報理工学院に所属する学士4年生が構築しました。「留学」って「どんな感じかな?」、「いきたいな…。」から始まり、2024 年の秋から派遣交換留学プログラムでアメリカ・ワシントン大学に留学しました。



左の QR コードから、自分の希望に合うプログラムを確認してみませんか？

国際教育課は、今後も科学大の留学プログラムの魅力を伝えて、様々なテーマで留学イベントを開催し、より多くの学生の留学のサポートをしていきたいと思っています。